





# 春よ来い

## 第三一四回 感動の一瞬

ぶーん、ぶーん。朝の七時前、かえってしばらく経ったカブトムシたちが次々と飛び立っていきます。その姿はあつという間に緑いっぱいの林の中に入って見えなくなりました。ぶーんという音に気付いてから、ほんの数秒間の出来事でした。

カブトムシたちが飛び立った場所は浦川原区中猪子田の富一さん畑の一角です。自宅から車で五分ほど行った高台にありました。この日は曇り空でしたが、遠くにはうつつらと安塚区の菱ヶ岳が見えます。近くには小さな川があるのでしようか、川の流れの音がよく聞こえてきます。ウグイスなどの小鳥たちの鳴き声もよく響いていました。

軽トラックから降りた富一さんは、畑の隅にあるオガクズの山のところへ行きました。これがカブトムシのいるパラダイス、楽園です。富一さんはオガクズの山にかぶせてあった緑色のネットを手にする、ネットにしがみついたカブトムシを一つひとつ引き離し、野菜入れのコンテナの中に入れ始めました。ネットの中ではすでにカブトムシが幼虫から成虫へとかえり、外で動きはじめていたのです。

縦横それぞれ三層ほどの大きさのネット。カブトムシたちはネットの支柱付近に集まっています。富一さんは、「どういうわけか、端っこの方に寄っちゃうよね、おれも不思議でたまらんのだけ」と言いながら引き離す作業を続けました。それが一通り終わった段階で、ネットをまくりました。

ネットの下は黒茶色になったオガクズです。富一さんが軍手をつけ、オガクズを掘りはじめると、いました、いました、穴から出たばかりのカブトムシ、まだ穴の中に入ってしまったカブトムシ、穴から半身を外に出し、手を動かしているカブトムシもいました。これまで私はクヌギの木にとまっているカブトムシや牛舎の中の灯りに誘われて入りこんだカブトムシ、堆肥場のなかにいた大きな白い幼虫くらいしか見ていませんでしたので、これらのカブトムシたちの動きにくぎ付けになりました。

穴は円柱状で直径二センチ弱、深さは五、六センチあります。ここが幼虫から成虫になる場です。富一さんは、「幼虫が、こんなにきれいに穴を掘るんだよね。いつも感心しているんだ」と言いました。富一さんはまた、「穴から出てくると、子どもたちが見るとばか喜ぶがど」とも言ってニコニコ顔になりました。カブトムシが穴からごそごそと出てくるところは感動の一瞬です。

カブトムシが穴から出てくる様子をカメラに撮っていたら、山からバイクに乗って下りてきたYさんもエンジンを切って、観察の仲間になりました。「あらー、こんなふうに出てくるんだ」そう言ってしばらく見入っていました。また、コンテナの中にひっくり返って動かないでいるカブトムシを見て、Yさんは、死んでいると思ったようです。「死んでいるように見えるけど、寝ているんだね」と私が言うと、富一さんも「腹出して寝てるがどね」と笑いながら言いました。私も初めて聞いたときは信じられなかったのですが、Yさんもびくりとした顔をしていました。大人も子どもも、カブトムシという小さな生き物の生態のなかに新たな発見があるとうれしくなるんですね。

富一さんは現在五六歳、お連れ合いは吉川区後生寺の出身です。富一さんがカブトムシを飼うようになったのは一〇年くらい前から。子どもたちの喜ぶ姿が見たくて、続けているそうです。この日も大潟区の子どもたちが見に来るといふことでした。穴から出てくるカブトムシを見て、子どもたちはいったいどんな顔をするのでしょうか。



### 子育てや原発が話題に

平良木議員の地元、上中田で6日、お茶飲み懇談会を開催しました。私と平良木議員が報告、その後、懇談をさせてもらいました。

参加者のみなさんからは「近くの公園に行けば近所のお母さんた

ちと仲良くなれる、そんな公園がほしい」「市内の循環バスがほしい」「柏崎刈羽原発事故が起きた場合の避難計画づくりはどこまでいったのか」などの要望や質問などをたくさん寄せていただきました。しっかりと受け止めて頑張ります。

### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	7月9日(水)	7月14日(月)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.046	0.050
頸南消防署	0.043	0.050
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.047	0.040
名立分遣所	0.050	0.056

### たくさんの方から出版を祝っていただきました

13日は私の新随想集、『背中かき』の出版を祝う会でした。市内外から100人を超える人たちに集まっていただきました。

参加されたみなさんからは、本についてのたくさんエピソード、祝いの言葉、私への励ましなどを寄せていただきました。高田の三浦さん家族によるピアノとチェロの演奏、独唱、仙田幸造さんの漫談、切り絵による寸劇などたっぷり楽しませていただきました。おかげさまで素敵な会になったと思います。ご協力いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

